

水と緑の



森づくり

秋号

2005.10
Vol.2

Shinyouju
&
Kouyouju
Autumn



「みず・みどり みまもり はぐくむ 森がすき」

「水と緑の森づくり」キャラクター・キャッチコピー決定!!

「水と緑の森づくり」キャラクター



みーもくん

4月29日から6月30日にかけて募集していました「水と緑の森づくり」のキャラクターとキャッチコピーが決まりました。

キャラクターは90作品、キャッチコピーは121作品の応募があり、厳正な審査を行った結果、キャラクターは奥出雲町の永原麻衣さんの「みーもくん」。キャッチコピーは大田市の中村佐恵子さんの「みず・みどり みまもり はぐくむ 森がすき」に決定しました。

とても親しみやすい作品で、これから「水と緑の森づくり」の取り組みが県内各地で広がるよう、PRに役立てていきます。



澄田知事と懇談する受賞者の永原さん



水と緑の森づくり

県内各地で森を活かす活動
がはじまっています!

「森づくり・資源活用実践事業」の取り組み

平成17年度第1次決定事業 18件



分野	取組の名称	事業概要	実施団体
森林ボランティア	理想の山里づくり	中山間地域の自然環境の中で、都市住民が森林・休耕田の共同管理者となって、地域住民とアイデアを出し合い協調してボランティアで森づくり作業や体験教室を行い、週末に過ごせる「いなかづくり」を実践する。	理想の山里づくり実行委員会
森づくり講座	森林の効用と地球温暖化防止の実践研修会	本年3月の温暖化防止京都議定書の発効を機として、環境問題の実践活動を行うことで、将来にわたる地球環境保全の必要性を未来を担う子どもから大人まで世代間交流を通じて学習を深める。	連合島根
森づくり講座	おおだ里山林整備	「里山インターンシップさんべ」に参加する都市部の大学生とともに里山の整備活動を行う。併せて、この地における森づくり指導者やボランティアを結集し、里山整備の実践研究を実施し、他の地区にも活動を展開できる組織をつくりだす。	NPO法人緑と水の連絡会議
森づくり講座 木の利用講座	森の達人教室 「森林教室&秘密基地をつくらう!」大作戦	子どもと親子の体験活動を創るグループである「ネイチャーキッズ寺子屋」の会員(80名)を対象に、森をキーワードにした、森林教室、竹ポットによるどんぐり植林、県産材を利用した秘密基地(小屋)づくりなどの体験活動を実施する。	ネイチャーキッズ寺子屋
森づくり講座 木の利用講座	サマー楽校Inまさご	地元の小中学校生徒を対象に真砂地区の自然を利用し、森林伐採体験や、木材を使用した小屋づくり、山林の保全について学習する。	真砂地区振興センター
木材利用	飯南町県産材利用整備事業	町の公共施設など多くの人が集まる施設に、県産材を活かした木材製品(ベンチ、ランタナ、机)を設置し、地域資源・緑化活動に積極的に取り組み、あたたかな街づくりを目指していく。	赤来町商工会
木材利用	木製品利用推進事業	活性化センターで行っている「間伐材製品コンクール」の出品作品を流域内の学校等の公共施設に配置し、木の温もりとか人や環境への優しさなど木材のもつよさをできるだけ多くの人に知ってもらい、間伐材等による木製品の利用拡大を図る取り組みやPRを行う。	斐伊川流域林業活性化センター
木材利用	「三瓶のいいところ」案内看板作製事業	児童が案内看板「三瓶地域のいいところ」の作製を通じて、自然のよさ、森林の大切さを学び、郷土を愛する心を育むと共に、郷土のために実践する態度を育成する。	大田市立志学小学校PTA
木材利用	島根の木で育つしまねの子 ～森は友だち～	子どもたちが、木製のイス、机、ロッカーなど、木の感触にふれあって育つ保育環境を作る。併せて、親子で木材や森林に親しむ体験活動を通して、島根の木と山に対する親しみを深める。	吉田保育所 (後援:遊木民倶楽部)
木材利用	新一年生用机・椅子導入事業	次世代を担う子どもたちが学校生活において、県産材を利用した同じ机・椅子で6年間学習することにより、木材はもとより森林・林業に親しみをもち勉学に励んでもらう。	六日市町教育委員会
木材・森林バイオマス活用アイデア実証・木の利用講座	林業フェスタinはまだ	地球温暖化防止と循環型社会の形成をテーマに、同一場所で開催される「環境フェスティバル」に参加し、当地域で取り組んでいる環境に配慮した原木生産や製品作りを紹介するとともに、燻煙処理をキーワードにした木質エネルギーの利活用PRや情報提供を行い、県産材の利用拡大及び循環型地域社会の構築について普及啓発を行う。	石央森林組合
木の利用講座	間伐材を使って机椅子作り	地元の中心部に位置する園舎の新築に、区民のみんなが心を寄せた保護者会が、子どもを守る会を立ち上げ、地域に根付いて積極的に地域活動を行っている園に対し、新築に当たって間伐材を使って子どもたちに手作りの机や椅子を贈る。	双葉保育園保護者会
木の利用講座	間伐材を使ったベンチづくり	島民が木に親しむ機会を醸成し、間伐材を利用することによって森林の再生や地域の活性化に寄与することを目的に、間伐材を使ったベンチ作りを実施する。作成したベンチは保育所等の公共施設へ寄贈したり、展示会を行い、一般の方へのPRを行う。	隠岐(しま)の木で家をつくる会
木の利用講座	島根県産木材利用「木愛だ!」事業	若年層へ、島根県で出来た木をアピールし、親しみをってもらうことを目的に、スポーツ少年団が使用するトンボ、ベンチを自ら作成し、用具を大切にすることを養い、また、講座の中で「水と緑」の大切さを改めて認識してもらう。	安来農林振興協議会 緑化・森林部会
木の利用講座	森の創作工房	多くの市民に木材の持つ良質な特性や木工の魅力を体験・体得してもらうと共に、森林資源の重要性や維持管理の大切さも伝えていく。	出雲科学館
木の利用講座	間伐材を利用したオリジナルベンチづくり	親子が、木工を通じ、木とふれあったり、木の良さや、森づくり(間伐)の大切ななどを理解する機会を提供し、併せて多くの県民が気軽に木と親しみ、木とふれあう場を提供する。	しまねフォレスト・ネットワーク出雲
木の利用講座	第3回「島根県中学生ものづくり競技大会」技術分野「木工の技」の部	中学生によるものづくり技術を競う全国レベルの大会に向け、島根県大会を設け、県内中学生のもつ技術能力を評価し、島根県代表として地区大会に推薦する。	島根県中学校技術・家庭科研究会
木の利用講座	中学校技術家庭科技術分野「技術とものづくり」	実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくり等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、併せて森林資源の重要性や維持管理の大切さを生徒に伝える。	

しまねの森を 守り育てる

三瓶ダム周辺の里山林整備

大田市のNPO法人緑と水の連絡会議が主催して、三瓶ダム周辺の里山林整備が行われました。

地元のボランティアや、大学生などが参加して、竹が侵入し、荒れた里山の再生をみんなで考えはじめました。



邑智郡川本町「理想の山里づくり」

中山間地域の美しい自然環境の中で、都市住民に森林や休耕田の共同管理者となってもらい、参加者が協調して週末過ぎせる「理想の山里づくり」を目指しています。



チェンソーの使い方も習いました。



炭焼き窯と小屋を作りました。



当日は、島根県森林インストラクターの方に、木を伐って使うことにより、森林は守られていくことを教えていただきました。



間伐材を使って机椅子作り



隠岐の島町の双葉保育園保護者会では、保護者と地元ボランティアにより、子どもたちの机と椅子を作りました。子どもたちは、親の手作りに感謝の気持ちを持って、隠岐の木のぬくもりを感じながらすくすくと成長していくことでしょう。



木の香りたてよう机と椅子を使うと、お昼ご飯もいつもよりおいしいぞ！

しまねの森の 恵みを活かす

島根県中学生ものづくり競技大会

島根県中学校技術・家庭科研究会が行った「島根県中学生ものづくり競技大会」では、島根県で育ったヒノキの間伐材を使って、県内各地から参加した中学生が本箱などを作って、その技術を競いました。

荒れた森林を修復します!!

「県民再生の森事業」の取り組み

再生する

しまねの森を

重要な水源地域などにある41年生以上の荒廃した人工林で行われる、「県民再生の森事業」が雲南市大東町地内のスギ林で行われました。



外から見ると緑豊かな森林も・・・

中に入ってみると、薄暗く、地面に植物が生えていません。

雨が降ると、雨水は地中にしみこむことなく、地表の土と一緒に一気に流れていきます。



この事業で、木を間引くことによって、林の中に光を当てて、地面に植物を生やします。

数年後には、下草が生え、鳥や風により種が外から運ばれてきて、小さな広葉樹も生え始め、水を育む豊かな森林へと生まれ変わります。



みーもくんのおしえてしょーだい 「森づくりの山は 将来どんな山になるの？」

島根県農林水産部林業課 主席林業普及員 井ノ上二郎

森づくりではどんな作業を？

1 荒廃したスギやヒノキの林を対象に、つぎのどちらかの作業をおこないます。

- 大きな木も小さな木も混せて、林全体の概ね30%以上の本数を伐ります。



- 林の中に10～20m四方の区画を設定し、区画内の木を全部伐ります。
また、列状に木を伐ってもかまいません。



2 作業をおこなった林では日差しがたくさん入り、以前より明るくなります。
そのおかげでそこに育っている広葉樹はどんどん大きくなります。



3 なお、林の中に広葉樹があまり育っていない場合にはつぎの作業をおこないます。

- コナラ、ヤマザクラ、ケヤキなど将来大きくなる広葉樹を植えます。



作業をおこなった林は20～30年もすると・・・



植え育てたスギやヒノキと広葉樹が混じり合った森ができあがります。



森の中には大小の広葉樹が育っています。

たくさんの草、木、虫、鳥などが暮らし
水を育む緑豊かな森になります

「森づくり」行事 イベント案内

11月12月

月 日	内 容	場 所	問い合わせ先
11月5日(土)	森づくり体験ツアー	浜田市弥栄町地内の森林	浜田農林振興センター森林林業支援グループ 0855-29-5607
11月15日(火)	水と緑の森づくり植樹祭(銚子ダム上流で苗木植樹)	隠岐の島町原田地内の森林	隠岐支庁農林局林業振興グループ 08512-2-9647
11月19日(土)	列状間伐体験イベント“レッツ！カンパツ！”	浜田市後野町地内(国道186号線沿い)	浜田市林業研究会 0855-42-2400
11月20日(日)	ものしり出前講座(森づくりについての説明、枝打など体験)	隠岐の島町内の森林	隠岐支庁農林局林業振興グループ 08512-2-9647
11月20日(日)	間伐材を利用したオリジナルテーブル・ベンチ作り	出雲科学館	出雲市総合ボランティアセンター 0853-21-5400
12月3日(土)	2005 出雲ふるさとの森植樹祭	出雲市西郷町地内の森林(環境衛生センター付近)	出雲市農林基盤課 0853-21-5433
12月3日(土)	漁民の森づくり・大田地区植樹活動	大田市内の森林	県漁業協同組合連合会 0852-21-0001
12月11日(日)	「水と緑の森づくり」記念講演会～県民参加の森づくり～	浜田市(いわみーる)	県庁林業課 0852-22-5170
12月18日(日)	安来市緑化推進フェスタ(木の利用講座、元プロ野球選手講演、スポ少木工教室など)	安来市伯太町(伯太わかさ会館)	安来市産業振興課 0854-23-3331

あなたも応募してみませんか！

第3次「森づくり・資源活用実践事業」募集

＊森の中で木を植えたり、森林教室などを行う「森を保全する取り組み」
＊子ども達と木製ベンチを作ったり、森林ツーリズムをしたりする「森を利用する取り組み」
など、県民の皆さんのアイデアを募集しています。採択された取り組み

組みには「水と緑の森づくり税」による交付金を交付します。
事業実施期間：平成18年2月3日(金)～3月26日(日)
応募締め切り：平成17年12月28日(水)
詳しくは、県庁林業課・隠岐支庁農林局・各農林振興センター・各流域林業活性化センターへお問い合わせください。



クロスワードパズル

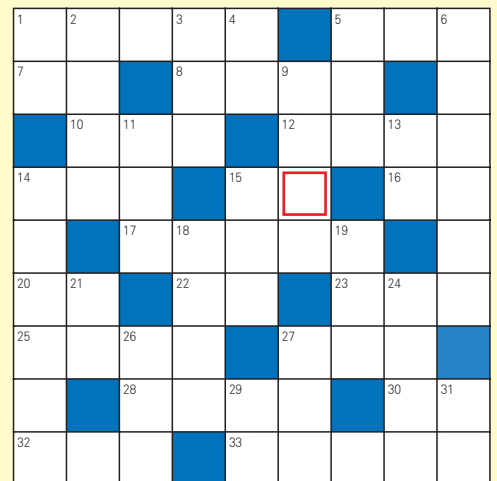
4回分の答えの一字ずつを組み合わせてクイズに応募しよう!!

ヨコのカギ

- ①ガンやツバメなどの「わたりどり」
- ②アボウドリは——では「信天翁」と表記します
- ③シュラフザックもこのひとつ
- ④いしいと虫の声に似た声を発するシオサザイ
- ⑤たまごに近づく天敵に——のポーズを
- ⑥巣を営むことです
- ⑦都会の中心部からはずれた所。ネズミも住みやすい
- ⑧虫やカエル、ネズミでいけにえを
- ⑨空高く飛びながらパイヒョロロと
- ⑩バタバタと大空から大地にランディング
- ⑪ベテランのウォッチャーに——入りでもするか
- ⑫果実からモルヒネを
- ⑬求愛の季節が終わると短く地味にチャッチャツと
- ⑭鳥のつばさもそれぞれ美しい——をしています
- ⑮渡り鳥の長旅には、幾多の——があるだろう
- ⑯マガンよりやや大きめのヌマタロウ
- ⑰川の水を塞ぎ止めるために造ります
- ⑱レンジの下にある火口
- ⑲オオルリの巣などに托卵する慈悲心鳥

タテのカギ

- ①早探や夜探のために——を造って寝泊りも
- ②ホーホケキョと初音を
- ③旅行計画、ホテルに入れておくことは
- ④ヒナの——毛はホヤホヤしてる
- ⑤日本も、ラムサール条約に——しています
- ⑥モンツキドリとも呼ばれる美しい野禽です
- ⑦オスが求愛のために美しいメロディーを
- ⑧人間も渡り鳥だといね。土地を取り替えること
- ⑨——を見てごらんズメが群がってるヨ
- ⑩足につけたバンドで移動の経路などをリサーチ
- ⑪動物愛護にはこれが必要。干渉せずに見ていること
- ⑫これだけじゃまるで——に水だけけど
- ⑬これもまた「ウォッチング」のターゲットに
- ⑭サギやツルの羽毛は?
- ⑮エコロジーは難しい問題
- ⑯マガモを飼いなした家禽
- ⑰下水に流したりすれば河川を汚すことに
- ⑱初詣、おみ——を引き、ハトに豆をやり...
- ⑲鳥にはいろんな習性がある。そんなことも知らないなんて



この季刊誌は年4回発行します。4回分の答えの二重ワク内の文字をつないだ言葉を応募してください。正解者の中から抽選で粗品をプレゼントします。応募方法は、第4号でお知らせします。

季刊誌の 愛称募集!!

この季刊誌「水と緑の森づくり」の愛称の募集期間を延長します。
応募締め切りを平成17年12月10日(当日消印有効)とします

ので、どしどしご応募願います。
応募方法はハガキ1枚につき1作品とし、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入のうえ、県庁林業課水と緑の森づくりスタッフまで郵送してください。
採用された方は、本誌で紹介し、粗品をお送りします。



を植えよう エゴノキ (エゴノキ科)



6月頃、水平に張り出した枝いっぱいに、白い花をぶらさげるように枝いっぱいに花をつけます。最近では、造園樹木として市販もされており、公園などにも植えられています。

花が終わると、2～3cm伸びた花柄の先に、灰白色のかなり大きな実をつけます。この実の皮の部分には、エゴサポニンという成分が含まれており、つぶしてかき混ぜると泡が立ちます。昔は、この実をつぶして洗濯に利用したり、川に流してウナギ捕りなどの魚毒としても使われました。

なお、エゴノキの名は、果皮がえぐいことから名付けられたと言われています。材は、ロクロ細工や、唐傘の先端部の骨をとめる部分の材料に利用されました。この種子には脂分が多く含まれており、ヤマガラが好んで食べることで知られています。